



を育む会

第15回

発行日：平成29年4月1日

発行者：「じねんじょ」を育む会

会長 池内 京子

下関市生野町2丁目28-20

社会福祉法人じねんじょ内

「支援する」とは？

「じねんじょを育む会」会長 池内 京子

先日、運転中に耳にした放送の一部概略です。

阪神淡路大震災で家屋が全壊し絶望している時、古老が「神戸空襲はこんなもんじゃなかった。あの時を思えば乗り越えられる」と若者たちにハッパをかけた。各地からたくさんの金銭・物資・労力の支援を受けたが、ほとんど短期間。誰にも自分の生活があり支援は永遠には続かない。支援をあてにせず自分達自身の力で復興へのめどをつけることが一番大事なのだと痛感した。近隣の被災者に呼び掛け自助団体を作り復興へと進む。その団体は東北大震災の時にも活動し「支援から自助活動へ」の足がかりになっていった。「支援とは受けるばかりでなく、自活や自立への導きをすることではないだろうか」と、被災者自身が語る。



これを聞いて、私にも思い当たることがいくつかありました。

幼い頃母子家庭で育ち、毎年度終わりに学校で片親家庭の児童だけ集められ物品が配られました。「〇〇会からの奉仕事業」と記憶していますが、それを受け取るのが嫌でたまらず、母には自活への拍車がかかり、私には「片親だから！と言われたくない」と子どもなりの意地が芽生えたようです。

一度、ネパールへ学用品支援のボランティアに誘われ、トランクの半分に楽器や鉛筆やノートを大量に詰め込んで行きました。その後も校舎を建てる運動に参加しましたが、日本からの金銭支援を待つばかりなのかな？という雰囲気がありました。私の友人にインドで同じように学校建設を目指して永住した人がいますが、日本人の経済力をあてにしていたようです。

身近では、二人の母の高齢者支援。自分でできることと手助けが要ることが微妙に食い違い、「対・子」と「対・他人」では本人の意志も異なり摩擦も生まれます。二人共にいなくなった今では後悔ばかりで、どうすることが本人達のために一番よかったのかなあと、遺影につぶやいています。

「支援？」⇔「押しつけ？」 「共感？」⇔「お節介？」

迷うところです。「誰も一人では生きていない・いけない」とだけ

はわかっていますが。「支援」と「自立」は車の両輪ではないでしょうか。



平成28年度 活動報告

◎「じねんじょを育む会」から下記の4つの活動に助成金を支出しています。

1. じねんじょ公開フォーラム2016

平成28年6月18日(土)14時～16時半
環境みらい館にて開催しました。

「つながれ！ひろがれ!! サポーターの輪～誰もが住みよいまちづくりを目指して～」と題して、山本千栄子氏を講師にお招きしご講演いただきました。



山本様のご講演から、誰もが暮らしやすい地域社会を実現するためには、法整備だけではなくその地域に住む私たち一人ひとりの意識をバ



リアフリー化していくこと、心のバリアを解消していくことが必要だと感じました。お忙しい中、ありがとうございました。

3. 第13回 じねんじょフェスティバル

今回のテーマは「じねんじょ はっしん」、メンバーさんと職員が一緒になって、じねんじょの活動を紹介しながら、保護者や地域の方々に「発信」していく取り組みをしました。

ポッチャの紹介では、トークメント方式で勝ち抜き戦、会場は盛り上がりました。また、抹茶をいただき癒やされ、パステル画の体験で芸術家気分になり、みなさんと楽しい時間を共にすることができました。ご参加、ご協力いただきました皆さま、「ありがとうございました。」



2. 馬関まつり

平成28年8月20日(土)開催、恒例になりました馬関まつり!「愛のひろば」でバザーやゲームなどして、みんなと一緒に楽しむ事が出来ました。“1年に1回”この会場で出会い、「なにしよう」「元気!」「それがいいね……」と会話が弾んでいました。



バザー品や景品などの、ご寄付ご協力ありがとうございます。これからも、みんなで楽しみながら支えていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

4. 成人を祝う会

「成人おめでとうございます」

しものせき環境みらい館を会場に、メンバー、保護者等と共に祝いさせていただきました。

二十歳の誓いとして

「色々な体験をし

絆を作りたい」

とご披露されました。

育む会からは、ご自身の印鑑をプレゼントさせていただきました。



※「じねんじょ」ホームページに「育む会」を掲載しています。ご覧下さい。

(<http://www.jinenjo.or.jp>)

○「じねんじょを育む会」会員みなさまへ

平素より、本会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、当会は社会福祉法人じねんじょが行う各種の事業が円滑に運営され、ひとりでも多くの障がいを持つ皆さんが安心して利用ができ、より豊かな活動ができますよう支援をさせていただきます。これからも、継続また入会のご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

